



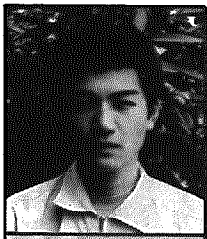
充実させたい 青春時代 富岡 彩子 (保母 善久)

二十歳を迎えたとき、成人だから色々な権利や責任が...などということは、わたしにとってまったくどうでもよいことでした。

そのころは学生で、制約の中にも自由と保護があり、そこで目先のことに追われて忙しく、一年はあっという間に過ぎました。

そして今年には社会人。だんだんと自分の幼き、甘さを知り、平凡というより無気力、逃げ腰の積み重ねの今の自己。嫌気がさすこともたびたびです。

社会的責任を要求し、わたしは社会の厳しさをひしひしと感じます。精一杯、また子供らしく生きそこねた時代ではありませんが、あの「子供」の時代をなつかしみ、もう一度返りたいなどと思うのです。でも、それは到底無理。結論は青春時代を人の倍も生きようと欲張りになるのですが、果たしてどうなることでしょうか。



人生の模索の時期 五十嵐 公平 (自営業 中学通り)

高校を卒業。無我夢中で二年が過ぎた。二十歳の誕生日を迎え.....成人式。

月並みではあるが、月日の経つのは早いものだ。それだけ充実した日々を送っていたことにもなるが、過去を振り返れば、忙しい日々イコール充実ということには結びつかないような気がする。

だれでも百パーセント満足のいく生活を送っているわけではない。あれもこれもと欲を出してはきりがなが、少しでも百パーセントに近くなるように努力

しかし、生活していてもこうなったらいいのと思う点もたくさんあります。中には「しよせん理想でしかない」と言われそうなことも多いです。以前に比べれば、随分住みよくなってきた黒埼町ですから、それに努力され続けているかたがたと、これから努力されるであろう多くのかたがたを信じ、さらに一層住みよいわが町となることを期待します。

人生の模索の時期

五十嵐 公平

(自営業 中学通り)

はしている。しかし、なかなか納得できず、悩んだり苦しんだりしている。この繰り返しで大人になっていくのだろう。

成人式を迎えるということ、一般的に言って、大人に見られるということである。嬉しい反面、不安であり、複雑な心境というのが本音である。

さて、大人という言葉や言葉を辞書で引くと「一人前に成長した人、分別のある人」と載っている。これが、自分に当てはまるかどうかは自分がいちばんよく知っているつもりだ。

\*職員の異動\*

八月一日付けで町職員の異動がありました。これからもよろしくお願いいたします。

(一)内は旧所属

- ◎総務課長 浅妻靖雄(産業課長) ◎産業課長 吉井平作(会計課長) ◎福祉課長 安藤太助(環境課長) ◎環境課長 横木正義(教育委員) ◎教育委員 富岡一久(福祉課長) ◎議会事務局 五十嵐清(税務課) ◎税務課 渡辺広雄(総務課) 大久保政信(住民課) 渡辺渡(建設課) ◎産業課 逢坂信行(議会事務局) ◎菅原久子(住民課) 石沢孝(環境課) ◎住民課 本間照子(企画調整課) 深沢文夫(産業課) ◎企画調整課 内山助男(教育委員会) 池田美春(産業課) ◎建設課 和田喜一(税務課) ◎環境課 柴垣勤(企画調整課) ◎教育委員会 古川文字(福祉課) 山際浩(産業課) ◎総務課 大橋雄一(税務課) ◎福祉課 風間イネ(教育委員会) ◎企業課 柄沢和子(消防署) ◎消防署 深沢紀代(企業課)

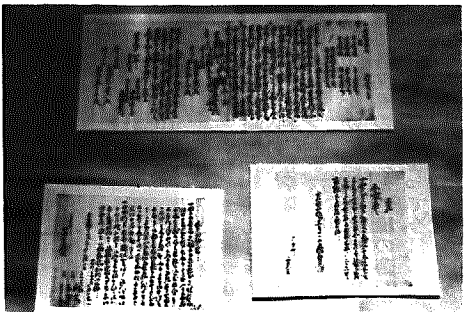


小山家古文書など 新たに三点が町指定文化財に

黒埼町教育委員会

黒埼町教育委員会は、七月十一日、有形文化財古文書一件、史跡二件を町指定文化財に指定しました。

小山家所蔵古文書(大野仲町 小山久矩四郎氏所有)



黒埼町大野の地名についてははっきりとした記録が発見されていなかった。しかし、大野は現在の地名や地番などから金巻村の支村であることは知られてい

る。このたび発見された小山家の古文書によれば、享保十二年(一七二七年)に金巻村(通称)と

称されていたことが確認された。そして、寛保二年(一七四二年)には「金巻村の内大野町」という一文があり、大野町という名称が見い出された。

大野は信濃川と中の口川の合流点にあり、新潟、長岡、会津などの県内外を結ぶ交通運輸の重要な中継点であり、宿場であった。会津からは木炭、薪(まき)、炭などが運び込まれ、大野から穀物が持ち帰られた。

当時の小山家はこの交易商家であり、そうとうな豪商であった。嘉永年間(一八四八年〜一八五三年)になると木綿糸買商人株式組織が出現した。

以上が古文書から確認されているが、この古文書は享保十二年(一七二七年)〜安政三年(一八五六年)に書かれた証文及び覚書で、六十点ある。いずれも大

野の発展経過、歴史を知るために欠かせない文書類である。

川口渡船場跡(大野新田町川岸)



大野町川口の渡船は、昭和十五年(一九五〇年)に信濃川橋の架橋によって百有余年の歴史を閉じた。信濃川、中の口川の合流点という地の利を生かし

訂正とおわび

先号の広報くろさき三ページで、間スミさんと永井ムツさんの顔写真を逆に印刷してしまいました。つまり、左端の写真が間さん、その右隣りが永井さんの写真です。

ご本人のかた、ご家族のかた、また多くの知人のかたにたいへんご迷惑をおかけしたことを深く陳謝いたします。今後二度とこのようなミスをお犯さないように注意する所存であります。 広報くろさき編集部

て、大野は商業交易地として、江戸中期活況を呈していた。幕末になると中浦の亀田織物との交易が盛んになり、対岸中浦との最短経路として渡船がひんぱんに利用されるようになった。渡船の始まった時期は明確ではないが、信濃川と中の口川の河道が固定化した江戸末期と推定される。また、この渡船は大野三・八の市を支える大きな基盤となった。

現在、大野新田町川岸に渡船の石段が残っている。

北場土堤跡(北場清水秀男氏宅地内)



「時は宝暦丁の丑よ、ころは五月の大水騒ぎ.....」の「横田切

れくどき」で知られる横田切れは、宝暦七年(一七五七年)に蒲原地方一帯を襲った大洪水であった。

明治二十九年(一八九六年)にも横田切れがあり、その惨状は人の目をおおわしめた。この後、蒲原一帯の低湿地は幾多の干拓事業や排水整備事業が施され、日本有数の穀倉地帯となるのではあるが。

今も北場に残る篠竹堤は、その昔低湿地帯の住民を悩ませた洪水を防ぐための堤であった。農民と水との戦いを知るうえで貴重である。今も堤の上にかやぶき屋根の水倉が残っている。

黒埼町指定文化財は、この三点を含めて二十点(有形十九点無形一点)あります。詳しくは広報一九五号をご覧ください。文化財の指定手順は次のように行われます。①文化財審議委員会(渡辺圭二委員長他五名で構成)で物件調査(今回の指定では現地調査を含め三回調査しました)②委員会が審議③教育委員長に委員会から答申書提出④教育委員会で審議、調査、決定 このようにして指定された文化財には、町からの管理補助金(一年間五千円)などで保護されることとなります。